

今週のメニュー

■トピックス

◇世界塩素協議会 年次総会に出席

■随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑩

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

■編集後記

■トピックス

◇世界塩素協議会 年次総会に出席

10月13日(水)~14(木)、米国ルイジアナ州バトン・ルージュで開催された「世界塩素協議会」(World Chlorine Council(略称WCC))の年次総会に出席しました。WCCは、世界の塩素工業会が国際的な協力を行うために1993年に設立された機関です。ポリ塩化ビニル(PVC)は、食塩水を電気分解して得られる塩素を原料としているため、塩ビ工業・環境協会(VEC)はその準会員となっています。今回のメルマガでは、WCC年次総会のトピックスを報告します。



バトン・ルージュ市街とミシシッピ川

今回のWCC総会は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響により、3年振りの対面開催となりました。日本の他には、米国、欧州、南米、韓国の工業会と、米国、韓国の同業メーカーから合計15名が出席され、会議に先立ち、3年振りの再開と新たなメンバーとの出会いをハグやキス、(奥手のアジア人は)握手で喜び合うことからスタートしました。

まずは、各ワーキンググループからの活動報告です。それぞれについて、トピックスを記載します。

①Global Safety Team (安全対策チーム)

世界各地で安全の啓蒙活動を行っています。今回は、11/20~23にブラジルで開催された150人規模の講習会について、その計画概要が報告されました。講習内容は、塩素の安全な取扱い方や緊急時の対処方法の他、製造工場の自動化や改善策等です。WCCでは、世界各地で発生した多くのヒヤリハット事例等を共有していますので、それを基に全世界の安全向上に貢献しています(ヒヤリハットとは、重大な事故にはならなかったものの、それにつながる可能性があった事例のことであり、心の中で”ヒヤッ”としたり”ハッ”

と感じる様な案件です。大きな事故の陰には多くのヒヤリハットが隠れていると言われることから、ヒヤリハット事例を教訓に対策を行うことにより、事故を防止できると考えられています)。後日、現地担当者に聞くと、講習会は盛況のうちに終了することができた様です。

それから、プロセスハザード分析について議論されました。これは、工場で取扱う化学物質の管理方法を決定するために、化学物質の性状を正しく把握し、その取扱いによって生じ得る危険性を分析してリスクを低減する手法です。その分析頻度や実施するメンバーの構成、効果や経験談等が話題となりました。正解が有るものではありませんが、世界各地で同じ様に安全に向けた取組が行われていることを改めて認識することができました。

②Global Advocacy & Science Team (情宣・科学チーム)

PVC を含む塩素誘導品が、国連が提唱する 17 の SDGs (目標)に対してどの様に貢献できるか、全世界のメンバーで再認識し、今後、更に目標達成に向けた取組をすすめることで合意しました。PVC は、配管や電気ケーブル、住宅建材等に使用されることにより、目標のうち 6 番目「安全な水とトイレを世界中に」や、9 番目「産業と技術革新の基盤を作ろう」、11 番目「住み続けられるまちづくり」等に大きく貢献しています。

その他、塩素誘導品の製造工程で使用される材料や製品にかかる技術や法規制動向について情報を共有し、今後も正しい方法で世界の発展に貢献していくことで一致しました。



③Global Communication Team (広報チーム)

WCC では、ウェブサイトや Twitter で、活動内容やニュースを発行しています。その広報内容について報告されました。私たちの生活に塩素誘導品がどの様に貢献しているかや、WCC の活動内容を知ることができますので、是非、アクセスしてみてください。

WCC ウェブサイト(<https://worldchlorine.org/>)より

引き続き、全体会議と、各地域の報告(今回欠席の中国・インドは書面にて)に基づくディスカッションが行われました。各地域からは、経済や塩素工業の稼働状況、取組や課題等が報告されました。やはり昨今のエネルギー価格高騰とカーボンニュートラルへの意識の高まりを受け、エネルギー消費量及び化石燃料使用量の削減、炭酸ガス排出量削減、グリーン水素の調達と利活用については、全ての地域が課題と認識し、目標を設定して積極的な取組をしていることが報告されました。いずれも一朝一夕に解決できる課題では有りません。このため全体会議では、引き続き各種取組をすすめていくこと、カーボンニュートラルに向けてデータを蓄積していくこと、情報や各地域の目標・規制・政策を共有していくことで合意しました。

以上が今回の年次総会の主なトピックスです。今回は、担当者の交代に伴い初めての参加となりましたが、これまでの長いWCCの活動を通じて培われたメンバー同士の結束力と、塩素業界を発展させていく強い意思やその推進力を感じることができました。今後もWCCへの参画を通じて、日本の塩素業界の発展と、PVCを含む塩素誘導品による安心・安全な社会の実現に向けて、貢献していきたいと思います。

■ 随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑩

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

「シロアリ施工の保証が、そろそろ満了になりますので…」といったご案内を聞いたコト、ありませんか？基本的にシロアリ防蟻施工の保証期間は5年と言われていますが、どうしてなのかご存じでしょうか？「まあ、2～3年過ぎちゃったけど大丈夫、ダイジョ～ブ…笑」なんて方にこそ、知っておいて欲しいんですよ。今回は、防蟻施工の使用薬剤とその効力のお話です。

今から60年以上前は、ヒ素やクロルデンの使用が全盛…？

私が防蟻業界の門を叩く更に遙か昔の話ですが、当時はヒ素やクロルデンといった、殺虫能力が非常に高い薬剤がシロアリ駆除には使われていました。少量でも半永久的に効果が持続する代わりに、人体への影響が心配ですよネ。おじいさんやおばあさんの中には、「シロアリの工事をするとゴキブリもいなくなるからありがたいよお。」なんて今でも言われたりしますが、コレ実際にそうだったんです。我々業界内では「昔の薬剤は蒸気圧が高い」という言い方をしますが、以前の強力な薬剤は揮発などして成分が床上にも上がってしまい、それがゴキブリにも効いていたのです。冷静になって改めて考えると、恐ろしい話です。

1998年に起こった和歌山毒物カレー事件

さすがに国も環境汚染や人体の影響を考えたらマズい、と判断したのでしょう。1986年、クロルデンは化審法で「第1種特定化学物質」に指定され、製造・輸入の原則禁止、使用も制限されました。1998年の和歌山毒物カレー事件では、夏祭りで振る舞われたカレーにヒ素が混入されて無差別大量殺傷事件となり、この時の犯人の夫はシロアリ駆除業を営んでいたことも報道されました。それでヒ素とはとても恐ろしい物なのだ、と世間一般でも思われるようになりました。

1986年以降は有機リン系薬剤(クロルピリホス)が主流になるものの、今度はシックハウス症候群が問題になって2003年、建築基準法施行令にて、有機リン系薬剤も使用禁止となりました。

今では防蟻薬剤の安全性は格段に高くなった

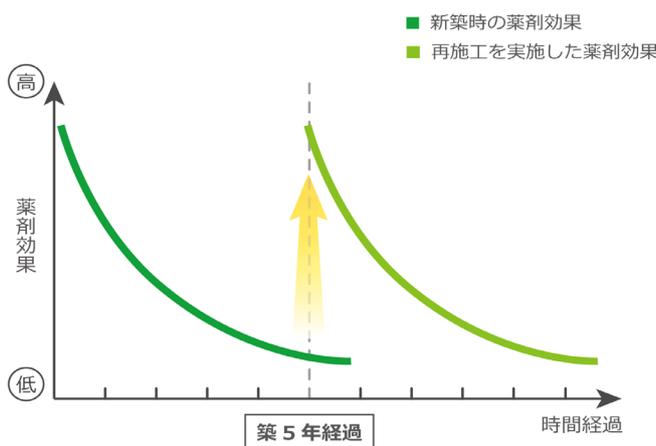
現在では、人体や環境に極力影響のない薬剤が主流になっています。蒸気圧が低くて安全性の高いネオニコチノイド系の薬剤をマイクロカプセル化したものや、虫コナーズや蚊取り線香の成分でも有名なピレスロイド系の薬剤などを弊社(株)テオリアハウスクリニックでも主に使っています。これらの薬剤の特徴は、人間を含めた哺乳類系の動物に安全で、

空気中への揮発が低くて低臭。環境にもやさしくて、年月と共に成分が土壌に残らないように分解されていく。半世紀前に使っていた物を考えたら、雲泥の差です。ネオニコチノイド系の薬剤などは、食塩よりも安全だと言われています。一度に摂取して人間が死に至る量は、食塩の方が少ないのだとか…。じゃあ、この薬剤を飲んでみる！なんていうお客様もたまにはいて、さすがに食べ物でも調味料でもなくて、バリウムみたいな栄養も味も無い物なので、カンベンして下さいよお～、なんて対応していますがネ。ただそんな人に、現在のシロアリ薬剤の有害性を心配するのなら、喫煙によるニコチン摂取の有害性の方が何百倍も身体に影響がありますヨ、とデータや数値を見せると、みなさん黙ってしまいます…笑

だからシロアリの防除薬剤の効力は5年！

人体にも環境にもやさしい薬剤は、散布と同時に分解が始まります。ただしシロアリの薬剤は遅効性。一応、効力は5年*です。逆に市販の殺虫剤は即効性。吹きかけてもその効果は数時間ともちません。だから市販の薬剤は、シロアリの予防には向かないのです。

現在主流のシロアリの薬剤は、散布した時の効力が100%だとすると、少しずつ分解していき、5年の経過で効力は約30%にまで減退します。0%ではないものの、薬



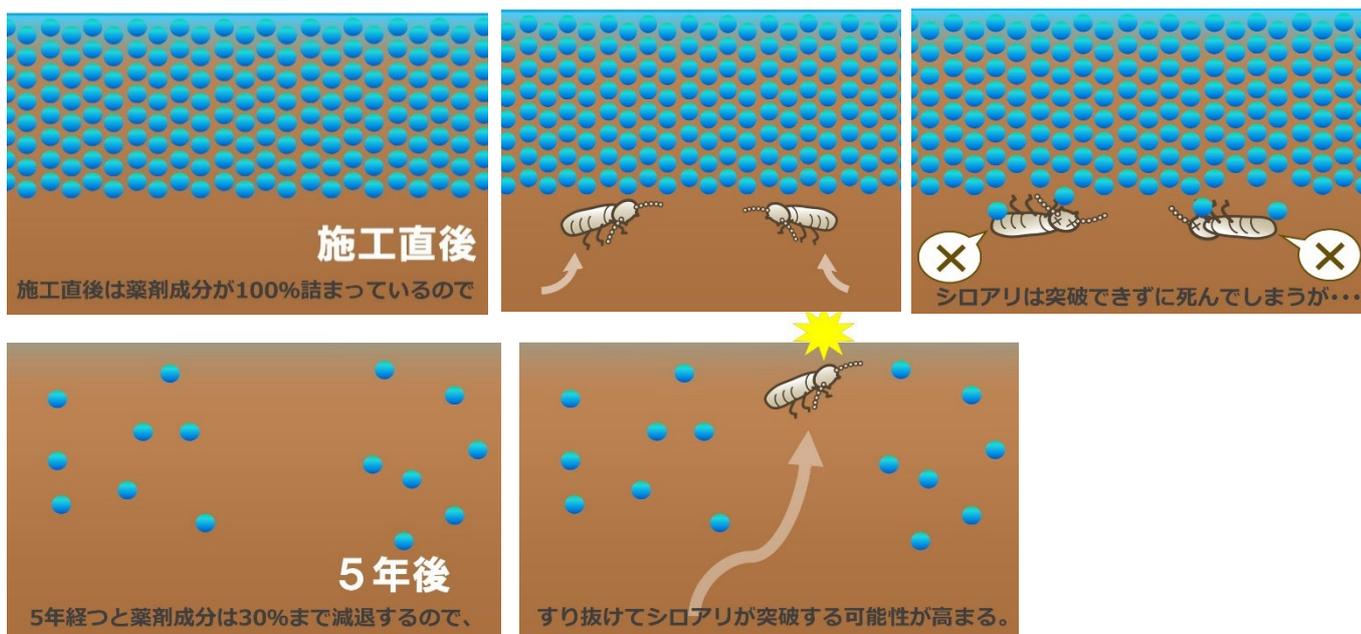
マイクロカプセル剤の安全性



- ・有効成分が露出しない
- ・雨や地下水で流れにくい
- ・シロアリに付着することで効果が巣全体にいきわたる

剤成分はスッカスカ。処理したばかりだとしっかりした薬剤のバリアができているのに、さすがに30%に減ると成分に触れずにシロアリが床下を突破してしまう可能性が出てくる。という事で、保険会社も薬剤会社も防蟻施工会社も建築した会社も、5年経ったらさすがにシロアリ被害の保証はできないよネ、という事で基本的に防蟻の保険保証は5年に設定されています。

※防蟻薬剤を精製している薬剤会社が提唱している薬剤の有効期間



(出典：(株)テオリアハウスクリニック)

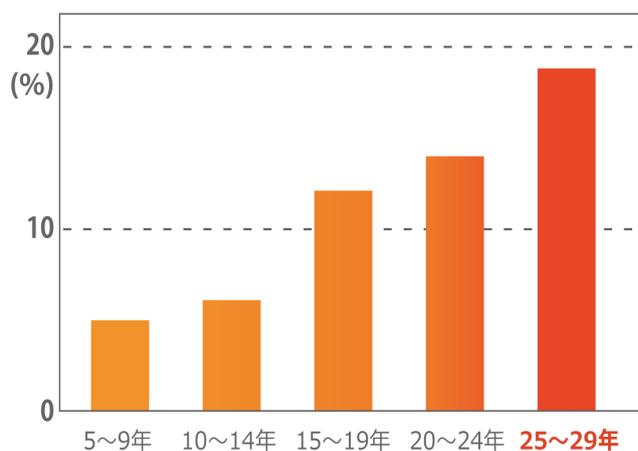
5年経ったら床下の状況点検と再施工が大事

大手ハウスメーカーさんだと10年保証の場合もありますが、大抵はこんな構造で、この薬剤を使い、こんな施工で…と、しっかりした仕様指定の下で保証しており、さらには10年かけて実証試験を行った上で保証を出しており、安心です。ただし、たま～に机上の論理だけで10年保証を出している会社さんもありますが、それは我々プロの目から見ても、ちょっとコワイですネ。そんな会社さんが10年後も存続しているとは限らないですし…笑

どちらにしても、新築から5年、シロアリ防除施工から5年経ったら、建てた住宅会社や専門の防蟻会社にまずは床下点検してもらって下さい。薬剤の効力が無くなってしまったらもう無防備状態で、その後、被害が出るか否かは確率の問題ですから…笑

とは言え「大丈夫だよ！」と高を括っている人ほど大当たりを引きやすいので、ご注意ください…汗

築年数ごとのシロアリ被害発生率



日本長期住宅メンテナンス有限責任事業組合調べ
平成24年度国交省補助事業 全国木造住宅調査

■ 編集後記

日本最大規模の環境展「エコプロ 2022 <環境問題とSDGsに向き合い持続可能な社会へ>」が12月7日(水)~9日(金)、東京ビッグサイトで開催されます。塩ビ工業・環境協会(VEC)と塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は共同出展します(ブース:

東5ホール 5-034)。リアルでの出展は4年ぶりになります。

私たちのブースではコンセプトを【生活を豊かにするPVC】と定めて、身の回りのPVC製品、防災・省エネなどの社会貢献、医療・福祉分野での活用、リサイクル性などについて紹介します。

クイズラリーも用意しています。皆様のご来場をお待ちしております。

<https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
